

もしもに備える

Facebook



# みんなの防災ヒント



阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地震、西日本豪雨、北海道地震からの復興や災害支援に取り組む5つのコミュニティから学びをつないだFacebookの災害対応ガイドブックです。

## 備える

### 一日常からの防災一

住んでいる自治体や天気のニュースサイトのアカウントをフォローし、公式な情報源を確保しておこう。

北海道地震発生時、各地で電気や水が止まるなどの問題が起きた際に、給水情報などの有益な情報が公式のアカウントから発信され、正しい情報を入手できました。(あるぼら 秋田谷さん)



## 知る 知らせる

### 一災害時の利用一

ニュースフィードを見るときは、いつ投稿されたものか、投稿日時に注意して最新の情報を得るようにしよう。

タイムラインが時系列で表示されていないのに、一番上に表示された投稿が最新の情報だと勘違いしてしまい、誤った情報として捉えるケースも見られます。(よか隊ネット熊本 土黒さん)

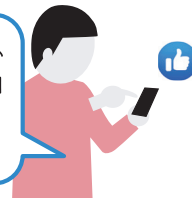


## つながる 支える

### 一支援・受援に向けて一

直接活動に参加できなくても、復興に取り組むコミュニティの投稿に、「いいね！」で気軽にエールを送ろう。

思いを込めた防災関連の投稿を行い、共感を広げたいと思っています。みなさんの投稿への「いいね！」やシェアは励みになります。(3.11 みらいサポート 鈴木さん)



災害が起きたときに、安否を知らせたい・確認したい、また、連絡をとりたい家族や友人とは、あらかじめ「友達」になっておこう。

#### 災害時の Facebook との上手な付き合い方

(東北大学 災害科学国際研究所 佐藤翔輔准教授)

- ・ SNS 疲れには注意が必要です。過度に依存せず、現地で得る情報と相互に補完する形で情報収集しましょう。
- ・ 投稿するとき、投稿を見るときは気持ちを落ち着かせて感情的にならないようにしましょう。
- ・ 言葉遣いに気をつけて、気持ちのよいコミュニケーションを心がけましょう。

災害発生直後、お互いの命を守るために、FacebookやMessengerで、安否や避難状況を家族や友人にすぐに発信しよう。

情報が足りない場合は、地域名で検索して、地域のコミュニティや、そこに住む人の投稿からも情報を得よう。

電波が不安定なときは、電波が繋がった時にすぐ投稿することができるよう、下書きの準備をしておこう。(オフラインでもFacebookのページは開くことができます)

投稿に対して疑問や質問があるときは、むやみに拡散せず、コメントで確認してみよう。

被災により家族や友人と離れてしまったら、Facebookでつながってみよう。困ったらMessengerで相談してみよう。

支援を行いたいと思ったら、メンバーを集めて復旧・復興支援のページやグループ、イベントを立ち上げてみよう。

災害支援に参加したいと思ったら...

1. グループ機能から災害支援に取り組むコミュニティを検索して参加してみよう！
2. イベント機能からボランティアに参加してみよう！

# 災害支援ハブ 東日本大震災がきっかけで誕生

災害時に自身の無事を報告したり、安否を確認したりできるFacebookの「セーフティチェック」機能。東日本大震災が発生した2011年、Facebook本社でインターンシップをしていた日本のエンジニアが「コードを書くものとして人助けをしたい」という思いからプロトタイプの「災害用伝言板」を作ったことがきっかけとなり、誕生しました。

現在は「災害支援ハブ」として機能を拡充させながら、世界中で発生する災害時に利用者の皆様やコミュニティをサポートしています。

## セーフティチェック機能

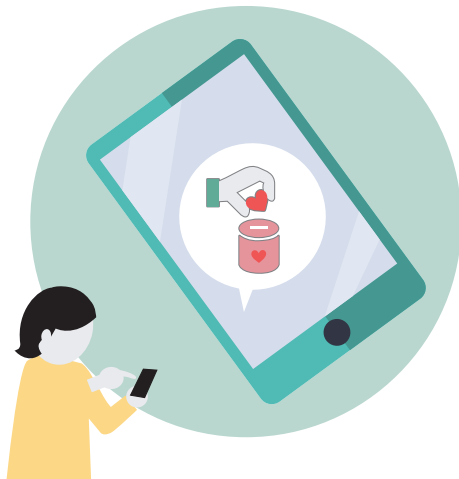
ワンタップで家族や友人へ簡単に安否を知らせることができます。Facebook上の友達が被災地にいる場合は、友達が無事を報告すると、通知が届きます。



たくさんの人からの連絡に一人一人返事をするとバッテリー切れなどの原因になることも。  
災害支援ハブで家族・友人に一斉に無事を報告することもおすすめです。

## 募金キャンペーン機能

Facebook上で寄付をしたり、寄付を募ったりすることで、被災した地域の方々や災害支援を行う非営利団体をサポートすることができます。災害支援ハブからも寄付が可能であり、集まった募金は被災地へと届けられます。



## コミュニティヘルプ機能

支援を必要とする人と支援ができる人を直接つなぎ、食料や避難場所、移動手段を探したり提供したりすることができます。



# 災害復興コミュニティ紹介とメッセージ

今回の災害対応ガイドブックの作成に協力してくださった全国5つのコミュニティからのメッセージやFacebook活用のヒントを紹介しします。災害の種類、発生からの経過年数によって、取り組まれている活動や支援の形も異なります。詳しい活動についてはぜひ、それぞれのコミュニティのFacebookページやグループを訪れてみてください。



## 体験エピソード

車中泊避難に関するアンケート調査結果のデータ化にあたり被災地では支援の人手が足りなかったためFacebookで協力を呼びかけたところつながっていた全国各地の知人・友人約30名からコメントやメッセージが集まり協力してくれました。



よか隊ネット熊本  
(熊本県宇土市)  
土黒 功司さん



Facebookコミュニティ設立日 2016.4.24

災害や防災というと、緊急時の対応に目線が行きがちですが、実は、長い目線での防災活動が必要であると思います。そこは「防災」という意識よりも「人と人のつながりによる地域づくり」だと思います。地域のつながりが希薄になりつつある現代社会で、ご近所付き合いなどのリアルなつながりも、SNS 上でのつながりも大事にしていきたいと思います。



## 体験エピソード

情報収集時に、投稿内容に疑問がある場合は投稿に対してコメントし事実確認を行います。実名制のFacebookだからこそ発信する情報に責任や信頼性があると思います。



西日本豪雨災害支援コミュニティ  
(西日本地域)  
塚田 耀太さん



Facebookコミュニティ設立日 2018.7.8

「微力だけど無力じゃない」一被災地に実際に何えなくても、離れてできる支援の形があると思います。被災地に関する情報を発信したり、活動を応援・支持したりするなど、SNS だからこそできる情報支援があります。



## 体験エピソード

毎年行っている1.17の追悼イベントや慰霊碑のチェックインラリーイベントなど定期的にFacebook上でイベントを立ち上げ災害時の経路の伝承に取り組んでいます。



阪神淡路大震災1.17 希望の灯り  
(兵庫県神戸市)  
藤本 真一さん



Facebookコミュニティ設立日 2014.1.27

約25年前に起きた阪神淡路大震災の経験や学びを後世に伝えていくことが非常に重要です。特に、今の若い世代にどのように関心を高め、どのようにして伝えていくか。そのためには、イベントやSNSでの情報発信で入り口を設けることで、若い世代の方が自然災害について考えるきっかけとなしてほしいと思います。



あるばら  
(北海道厚真町)  
秋田谷 凛さん



Facebookコミュニティ設立日 2012.3.2

復興は、ただ町が復元されることだけではないと思います。その地域の内外の人々の心の中から、「その土地＝被災地」というラベルが剥がれたときに、初めて復興と言えるのではないのでしょうか。そのためにも、私達は、SNSを通じて被災地域から、元気な様子を積極的に発信し、本当の意味での復興に向けて様々な活動に取り組んでいます。



## 体験エピソード

SNSを通じて被災地域の元気な姿を「今これだけやっていてるんだぞ！エネルギーいっぱいだ！」という様子を発信しています。個人、コミュニティとしても皆さんからの「いいね！」はすごく励みになります。



3.11 みらいサポート  
(宮城県石巻市)  
鈴木 典行さん



Facebookコミュニティ設立日 2011.6.14

東日本大震災では、防災無線やラジオ、そして近所の方々の声掛けにより津波が来る情報を得ながらも、安否のわからない家族を探し続けたことで、避難しなかった方々が多く、かけがえない命を失いました。残念ながら、その後の自然災害でも救えなかった方が亡くなっています。SNSの活用により、大規模災害を自分事として捉え、命を守る行動がとれる社会への変革につながることを願っています。



## 体験エピソード

南海トラフ地震のような大災害時には携帯の停波も想定されている中で災害発生時は、まず自分の無事を確保しすぐに家族や友人に情報を発信しましょう。電波が届かなくてももし復旧した場合に備えて投稿を準備しておくことも有効です。



Facebook は、  
「コミュニティづくりを応援し、人と人がより身近になる世界を実現する」  
ことをミッションに掲げています。  
今後も人々を危害から守り、その後の復興を支援する  
「安全なコミュニティ」づくりに向け、  
機能の拡充やコミュニティの支援を続けてまいります。

